

# 破傷風の予防接種を受けられる方へ

## 1. 破傷風について

破傷風は細菌による病気です。破傷風菌は土の中に生きており、切り傷や突き刺した傷口から皮膚に入ることがあります。潜伏期間は約3～21日です。皮膚の下に入ってしまうとこの菌は激しい痛みを伴いながら筋肉にけいれんを起こす毒素を作ります。この毒素によって窒息（喉の筋肉のけいれん）、強い心臓の障害等、中枢神経の麻痺を起こし、死亡にいたる場合もあります。

このワクチンの効果は数年で薄れてしまいますので、海外の出張等長期滞在の場合などにその地域によっては、ワクチン接種が勧められます。

## 2. 他のワクチンとの接種間隔

厚生労働省はこれまで、異なる種類のワクチンを接種する場合、一定の日数を空ける接種間隔を規定していました。この度、この規定が見直され、注射生ワクチン同士を接種する場合以外は、接種間隔の制限を撤廃することになりました。令和2年10月1日以降適応されます。

一方、同一ワクチンの接種間隔は従来どおりになりますのでご注意ください。

## 3. 次の方は接種を受けないで下さい

- ① 明らかに発熱している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 破傷風ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある方  
＜アナフィラキシー反応とは＞  
急激に起こる、じんま疹、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害  
血圧低下 等のショック症状
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方  
(予診の結果、接種が不適当と考えられる場合は中止することがあります。)
- ⑤ 妊婦または妊娠している可能性がある方

## 4. 次の方は接種前医師にご相談下さい

- ① 心臓血管系、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、及び発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱があった方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のあった方
- ③ 過去にけいれんの既往がある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 破傷風ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こすおそれがある方

## 5. 破傷風ワクチンの接種スケジュール

筋肉又は皮下注射にて3回接種します

1回目 0.5ml

2回目 0.5ml (1回目より3~8週間後)

3回目 0.5ml (2回目より6ヶ月後~18ヶ月後)

## 6. 接種後の副反応

発熱、悪寒、倦怠感、頭痛、まれに下痢、めまい、関節痛等を認めることがありますが、通常2~3日中に消失します。また接種部位の発赤・疼痛・掻痒感、腫脹、硬結、熱感等を認める場合がありますが、これも通常2~3日中に消失します。

## 7. 接種後の注意

- ① 接種当日は過激な運動を避け、接種部位を清潔に保ちます。  
(入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。)
- ② 接種後は健康状態に留意して下さい。局所の異常反応や異常な症状(高熱、けいれん等)を呈した場合は、下記にご連絡下さい。

社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター